

アートを探求

# AAC Journal

AICHI ARTS CENTER

by 愛知芸術文化センター

愛知県美術館

多様に表現された「椅子なるもの」を通じて、  
私たちの社会や人間の有り様について考察する。

椅子は、デザイナーや建築家の創造性を喚起する究極的なテーマであり、これまで数多の名作椅子がかげらの手によって生み出されてきました。しかし、椅子がアーティストにとっても魅力的なモチーフとなってきたことは、案外知られていないのではないのでしょうか。

とりわけ戦後、1945年以降に活動したアーティストは、椅子のもつ多様な意味やイメージに魅了されてきました。歴史を遡ると、戦後の美術のあり方を決定づけたとされる記念碑的作品、マルセル・デュシャンの《自転車の車輪》(1913年)にはスツールが使用されており、本展ではこの作品を椅子表現の原点として扱っています。

現代美術のなかの椅子は、玉座に代表される権力の象徴として登場することもあれば、身体に寄り添って安らぎを与える身近な存在として表現されることもあります。拘束して罰を与える装置になることもあれば、車椅子のように身体を拡張して移動を助ける道具にな

ることもあります。使い古された椅子が特定の個人や集団の記憶と結びつけられることもあれば、落ち着いたコミュニケーションの場に必要ない物として椅子が召喚されることもあります。本展では、このような戦後のアーティストたちの作品を、椅子の日常的な用途から逸脱し、外観や様式よりもコンセプトや意味に重きを置く点で「アブソリュート(絶対的)」な椅子と呼ぶことにしました。

アーティストがいかに椅子というモチーフに取り組んだのか、その多様な表現をいくつかの観点を設けて紹介すると同時に、表現された「椅子なるもの」を通じて私たちの社会や人間の有り様について考察する本展。出品作には座れる椅子もあるので、是非会場で座りながら椅子について考えてみてほしいです。

愛知県美術館 学芸員 鶴尾佳奈

スタッフのオススメ関連本!

## ART LIBRARY

イスのかたち デザインからアートへ  
村田慶之輔ほか/企画・編集  
国立国際美術館、1978、西尾直/表紙デザイン

1978年8月から10月にかけて国立国際美術館で行われた同名の展覧会の図録。実用的なデザインから自由な発想によるものまで154点を収録・解説。



鶴尾学芸員



ジム・ランビー《トレイン イン ヴェイン》2008年 木製椅子、ハンドバッグ、鏡、油性ペンキ 公益財団法人アルカンシェール美術財団/原美術館コレクション © Jim Lambie. Courtesy the Artist and Sadie Coles HQ, London

Contents

アブソリュート・チェアーズ  
セントラル愛知交響楽団 角田鋼亮  
目に見えないもの、その世界。高橋皓子  
劇場とダンス、世界之窗と新しい広場

アブソリュート・チェアーズ

椅子、その究極なるもの。

2024年7月18日(木)~9月23日(月・振休)

アブソリュート・チェアーズ 現代美術のなかの椅子なるもの  
Absolute Chairs: The Representation of the Chair in Contemporary Art

場所/愛知県美術館  
時間/10:00~18:00 ※金曜~20:00(入館は閉館の各30分前まで)  
休館日/毎週月曜日(ただし8月12日[月・振休]と9月16日[月・祝]、  
9月23日[月・振休]は開館)、8月13日(火)、9月17日(火)  
料金/一般1,500(1,300)円、高校・大学生1,300(1,100)円、中学生以下無料  
※( )内は前売券および20名以上の団体料金

Vol. 12

6月3日(月) 公開予定! / インスタ / はじまります!

aactime.aichi.jp / @aichigebunaacetime

AACのWEBサイトでは  
芸術を気軽に楽しめる  
コンテンツを配信!





セントラル愛知交響楽団  
角田鋼亮音楽監督より

私は中学生の時にオーケストラ部に入部しましたが、その定期演奏会が開催されたのが、当時開館したばかりの愛知県芸術劇場でした。あの時の輝かしい響きへの感動、ステージ上での興奮など、忘れることはできません。その数年後、この劇場で聴いたベルリン・フィルの演奏に圧倒され、将来指揮者になることを決意しました。そして、今年度から自分自身が音楽監督を務めるセントラル愛知交響楽団の本拠地となりました。数々の出会いの点は私の音楽活動を貫く線となりました。9月、「色彩」をテーマとした定期演奏会を開催します。オーケストラの多彩な色を引き出してくれる愛知県芸術劇場だからこそ、強く意味の出るプログラムだと確信しています。この素敵な劇場で、皆さまと色を巡る旅ができたらと思っています。皆さまのご来場、心からお待ちしております。

愛知県芸術劇場

MESSAGE



© Makoto Kamiya

2024年9月28日(土)

セントラル愛知交響楽団 第206回定期演奏会「イギリスの色彩」

場所/愛知県芸術劇場コンサートホール 時間/14:30~  
主催・お問合せ/セントラル愛知交響楽団 ☎052-581-3851



角田鋼亮 指揮者・音楽監督

2015年よりセントラル愛知交響楽団の指揮者を務め、24年4月より、セントラル愛知交響楽団音楽監督に就任。いま日本で最も期待される若手指揮者の一人として各地にて活躍の場を拡げている。

# 劇場

# 鑑賞 note

心を揺さぶり、思考が巡る、その場でしか味わうことのできないもの。丁寧な言葉で残されたレビューを読み深めて楽しみたい。

# 美術館

## いつまでもひよこな私たちへの物語

本作品は作者が子どもだった頃の昭和の時代と令和の現在が混ざり合った世界が舞台となっている。社会の縮図を思わせる多様な年代の人物が登場し、観客はこのうちの誰かに共感を覚え、自分自身の人生を重ね合わせるのではないだろうか。ストーリーの合間に差し挟まれるスタンダップコメディもこの作品が現代社会を扱っていることを印象付けるのに効果的な演出だった。『鮭なら死んでるひよこたち』というタイトルは、産卵後に力尽きて死ぬ鮭と、子育てを終えた作者自身とが重なって見えたことからきているようだ。暗いタイトルとは裏腹に、作品の世界観はポップで明るい。舞台奥にはカラフルな学用品が並べられた校門があり、まるで小学生時代が当時の目線でよみがえるようだ。物語の後半では校門のセットが裏返し、今では見る事のなくなったカラーひよこが売られる縁日が現れる。昭和という時代の活気が偲ばれる雑多で魅惑的な空気の中で、作者自身の思いを色濃く反映したガリア夫人の言葉が響く。ガリア夫人は時代を象徴する女性像と言えるだろう。夫人は花嫁姿の張りぼてとして舞台上に存在し、特定の役者が演じるのではなく、複数の役者たちが次々に夫人の生きた時代や思いを代弁していくという演出になっている。

戦後復興・高度経済成長の目まぐるしい時代に流されるように人生の選択をし、子を産み育て、気が付けば、「鮭なら死んでる」年齢になって、ふと、自分の人生を振り返り愕然とする夫人。心にぽっかりと空いた穴を埋め

るのは新たに任命された肩書なのだが、そうした肩書は「永遠の任命権者」である理事長から、まるで茶番のように量産されている空虚なものに他ならない。それでも、その肩書を心のよりどころとしてこれからの人生を生きたいこうとする姿はどこか滑稽で健気だ。

ラストシーンでは降り積もる枯れ葉とノスタルジックな夕陽の中、優しいアコーディオンの音色が私たちを包み、なんだか浄化されたような気分になった。

**横井ゆきえさん** Yukie Yokoi  
「鑑賞&レビュー講座2023」受講生。

※公演鑑賞後に執筆するための知識やスキルが学べる「鑑賞&レビュー講座」の受講生によるレビューを掲載。他の受講生のレビューは、劇場ウェブサイトでご覧いただけます。



© 今井隆之

**第21回AAF戯曲賞受賞記念公演**  
**『鮭なら死んでるひよこたち』**  
2023年11月24日(金)~26日(日)  
場所/愛知県芸術劇場小ホール

## 連携してコレクションを活かす

オムニバスは、いくつかの独立した作品を組み合わせることで一つの作品にするもので、映画づくりでは複数の短い挿話や物語の連係で一本の映画を成り立たせる魅力的な手法として知られている。「コレクションズ・ラリー」展は、この手法に則った両館の学芸員4人が、互いのコレクションを見澄ますうちに個別のテーマで立ち上げた小さな企画展のそれぞれを、本展の各章(第1章「JOMON」、第2章「うーまんめいど」、第3章「ハードロック／ヘヴィメタル」、第4章「祈り」)として編成し、学芸員のまなざしの清新さでコレクションの存在を再評価する企画だったように思う。

愛知県美術館(以下「県美」)は1955年開館の愛知県文化会館美術館が前身で、かたや愛知県陶磁美術館(以下「愛陶」)は1978年に愛知県陶磁資料館として開館した。以来両館は長年にわたる積極的な活動を通じて、質・量ともに充実したコレクションを形づくってきた。県美は、国内外の近現代美術の収集をはじめ、考古遺物や仏教芸術、茶の湯の工芸品から近世・近代の日本絵画などに涉って評価の高い木村定三コレクションなど、優れた寄贈品の収集でも知られる。また古墳時代以来の大窯業地という地域の歴史性を背景に、古今東西の陶磁製品を学術的・体系的に収集してきた愛陶のやきものコレクションは国内随一の存在感を放っている。

両館のコレクションは合わせて17,000件余というじつに膨大な数量だ。

ところで県美の木村コレクションについては、陶磁器の調査に愛陶も加わって、その成果が2020年に愛陶の「愛知県美術館所蔵 木村定三コレクションの文人趣味と煎茶—こだわりの遊び—」展で披露された。両館の学芸員が連携する素地はこの頃までに培われていたのだろう。一方で、本展のように複数の学芸員が研究領域の専門性を越えて協働し、互いのコレクションを総合的に見渡したキュレーションは初めてのことだという。そもそも学芸員が、所属館でもなくしかも専門分野外のコレクションに触れる機会はきわめて少ない。このような境界を乗り越えて学知を連係することでコレクションをみごとに活用した、県美と愛陶の今後の連携にも注視していきたい。

**石崎泰之さん** Yasuyuki Ishizaki  
1960年松山市生まれ。多治見市在住。  
2021年から岐阜県現代陶芸美術館長。



**コレクションズ・ラリー**  
**愛知県美術館・愛知県陶磁美術館 共同企画**  
2024年1月16日(火)~4月14日(日)  
場所/愛知県美術館

# News

お知らせ

ウェブサイトAACはこちら!



こころのおやつ  
**AACタイム**  
by 愛知芸術文化センター

## 愛知芸術文化センターのウェブメディア

**こころのおやつ「AACタイム」が6月3日(月)オープン!**

食べても食べても太らないおやつってなーんだ? 世の中にそんな夢のようなものって...と思いますが、日常の中でサクッと取り入れて、自分のこころを満たしてくれるのがアートです。おやつにはあまい味、しょっぱい味、個性派の味、新感覚の味があるようにアートにもいろいろな味わいがあります。「AACタイム」では、その日の気分やシーンに合わせて、おとなも子どもも豊かな時間をお過ごしいただける記事を配信します。

プレスリリースはこちら!



## 愛知県美術館のウェブサイト

**作品の裏面画像を一挙公開!**

愛知県美術館のコレクション検索に、絵画約80件の裏面画像を公開しました。裏面には作品の所蔵歴や出品歴を示すラベル、作家による書き込みや別の絵があることも。作品がどう生まれどう扱われてきたのか知ることができる貴重な情報源です。裏面公開作品の一覧など、詳細はプレスリリースをご覧ください。愛知県美術館は、今後もコレクション検索データベースの情報拡充、更新に取り組んでいきます。

もっと知りたいアート専門の図書館  
**ART LIBRARY**  
(愛知芸術文化センター1F)

「こどものほん」コーナーには、初めてアートに触れるお子さまが美術や音楽に親しめる本が並び、夏休みの自由研究にもぴったり。世代を問わず、アート初心者にもオススメです。それぞれの視点でお楽しみください。



デザイン/神谷直広、高木若葉(株式会社Rand)  
編集/村瀬実希(MAISONETTE Inc.)、ReIna  
印刷/長苗印刷

© 愛知芸術劇場2024 ※本誌記事・写真・レイアウトの転載を禁じます。 ※本誌に掲載している価格は、原則的に消費税込みの価格です。 ※掲載内容は2024年5月20日(月)現在のものです。展覧会・公演の内容を変更、または開催を中止する場合があります。  
2024年6月1日号 Vol.120 発行・お問合せ/愛知芸術劇場(公益財団法人 愛知県文化振興事業団) ☎052-955-5506 e-mail/mkt@aaf.or.jp(広報グループ)



